



設定不要のかんたん同時通話

工場出荷時の本機は、電源を入れるだけで2台のトランシーバー間で携帯電話のように同時通話ができます。

1. 2台のトランシーバーの電源をONにします。
呼び出し音が鳴った後、同時通話ができます。
2. 同時通話をやめる時は[通話]ボタンを長押しします。

チャンネルを変えたい時は[通話]ボタンを長押しして通話を終わらせた後、どちらかのトランシーバーの[▼ On]または[▲ 機能]ボタンを押してチャンネルを選び、続けて[通話]ボタンを押すと、選んだチャンネルで同時通話ができます。

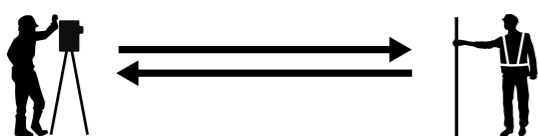
近くに他のトランシーバーがある場合は、それらのトランシーバーとは異なるグループコードに設定してください。

グループコードの設定は、次の手順で行います。

[▲ 機能]ボタンを押しながら電源ON → [▼ On]または[▲ 機能]ボタンを押して“GrP”で始まる表示にして[CUE]ボタンを押す → グループコードを選んで[CUE]ボタンを押す → [▲ 機能]ボタンを長押しして終了

2台のトランシーバーで同時通話を行う

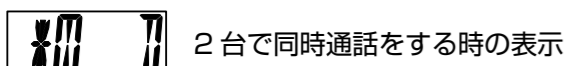
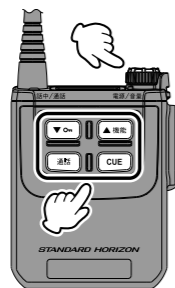
携帯電話のように同時に話ができます



この設定は一度だけです。次回も同じトランシーバー同士で通話する時は、電源をONにするだけで同時通話が可能です。

以下の手順で2台のトランシーバーを設定します。

1. 一度2台のトランシーバーの電源をOFFにします。
2. [▲ 機能]ボタンを押しながら電源をONにします。
セットモードになり、“* M”で始まる表示になります。
3. この時の画面表示が“* M D”以外の場合は、[CUE]ボタンを押してから[▼ On]または[▲ 機能]ボタンを押して、“* M D”を選択して[CUE]ボタンを押します。



4. [▼ On]または[▲ 機能]ボタンを押して、“GrP”で始まる表示にして[CUE]ボタンを押します。
5. 通話する相手と同じ番号(グループコード)にして[CUE]ボタンを押します。
6. 以上の設定が終了したら[▲ 機能]ボタンを長押しします。
チャンネル表示画面になります。
7. お互いのチャンネルをあわせる必要はありません。どちらかのトランシーバーの[通話]ボタンを押します。
「ブルルル」と呼び出し音が鳴った後、同時通話ができます。同時通話中は「話中/通話ランプ」がオレンジ色で点灯します。
通話するチャンネルを決めている場合は、どちらかのトランシーバーの[▼ On]または[▲ 機能]ボタンを押してチャンネルを選び、続けて[通話]ボタンを押すと、選んだチャンネルで同時通話ができます。
8. 同時通話をやめる時は[通話]ボタンを長押しします。

・次回同時通話を行う時に、表示されているチャンネルが使用中の時や別のチャンネルに変えたい時は、1台のトランシーバーでチャンネルを選んでから[通話]ボタンを押すと、もう一台のトランシーバーは自動的に同じチャンネルに切り替わり、同時通話ができます。

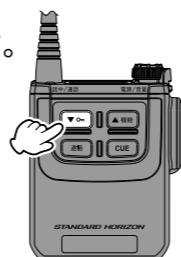
[▼ On]と[▲ 機能]ボタンを押してもチャンネルが変わらないようにする

[▼ On]や[▲ 機能]ボタンが何かにぶつかり、チャンネルが変わってしまうトラブルを防ぐことができます。

[▼ On]ボタンを長押しします。

約1秒間Lockが点灯して
[▼ On]と[▲ 機能]ボタンがロック
されます。

Lock



ロックを解除するには、もう一度[▼ On]ボタンを長押しします。“OFF”が点滅してロックが解除されます。

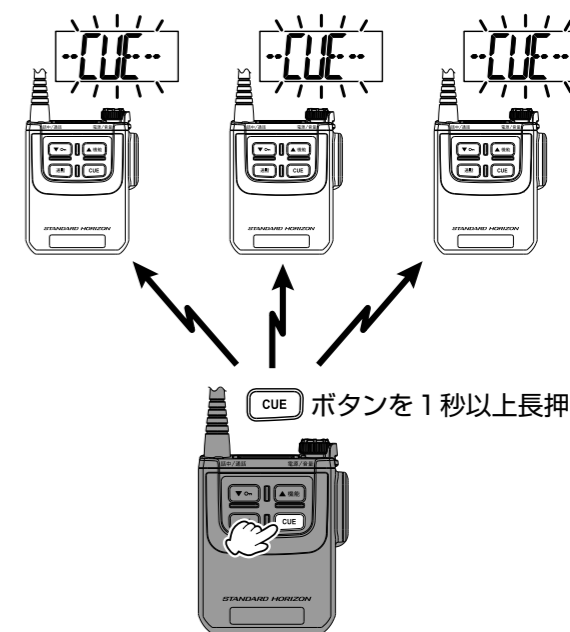
CUE(キュー)機能による緊急アラーム送信

グループ全員のトランシーバーにアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。
この機能は受信側の音量ボリュームに関係なく、設定した音量*でアラームが鳴り、同時に“話中/通話ランプ”が白色で点滅して、画面に“- CUE -”を表示させますので、騒音の中でも確実に緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。
グループ内のメンバー誰でも[CUE]ボタンを押すだけでCUE送信を行えます。

- ・ CUEを受信した後も、通話を続けることができます。
- ・ “- CUE -”の表示と“話中/通話ランプ”の白色の点滅はいずれかのボタンを押すと元に戻ります。

※アラームの音量は以下の手順で設定することができます。

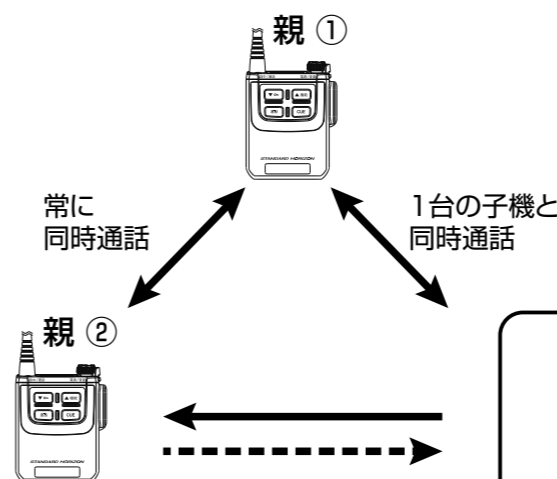
1. 一度トランシーバーの電源をOFFにします。
2. [▲ 機能]ボタンを押しながら電源をONにします。
3. [▼ On]または[▲ 機能]ボタンを押して、“2BC”で始まる表示にして[CUE]ボタンを押します。
4. [▼ On]または[▲ 機能]ボタンを押してアラームの音量を選びます。
01(音量“小”)～15(音量“大”)
5. [CUE]ボタンを押します。
6. [▲ 機能]ボタンを長押しして終了です。



多者間で携帯電話のように話をする (FAMICS *多者間同時通話システム)

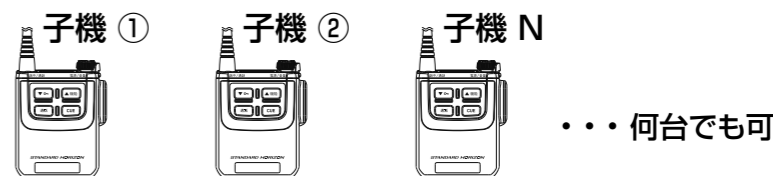
※ Full Duplex Advanced Multi Users Inter-com System

FAMICS 多者間同時通話システムのイメージ



- ・ 親①と親②は **常に同時通話** 状態です。
この通話は、子機全員(グループ全員)が聞くことができます。
- ・ 子機は **何台でも** 増やすことができます。
- ・ 子機は **誰でも** 親①と **同時通話** ができます。
先に[通話]ボタンを押すかVOXで送信した子機が同時通話に参加できます。
この通話は親②および受信中の子機全員が聞くことができます。
送信中の子機は親②の音声は聞こえません。

親②の音声は
常に全ての受信中の子機に聞こえる
送信中の子機には聞こえない



送信: [通話]ボタンを押すかVOXで送信する。(親①と同時通話ができる)
受信: 親①と親②、他の送信している子機の通話が聞こえます。

親①または親②が同時通話から抜けた場合

休憩などで親①または親②が、電波の届かない場所に移動した時でも、残ったトランシーバーは自動で交互通話(単信方式)に切り替わりますので、グループ内の連絡を確保できます。
この時の通話は[通話]ボタンを押しながら話をして、話が終わったら[通話]ボタンを放してください。

親①または親②が[通話]ボタンを長押しして通話から抜けた場合は、親機の[通話]ボタンを押すと自動で再び多者間同時通話に戻ります。

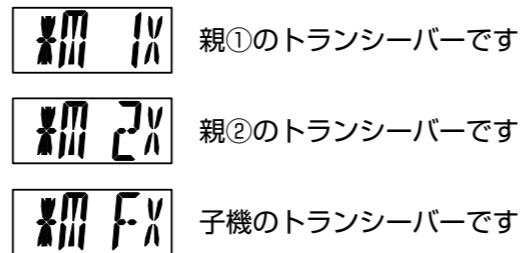
親①または親②が電源をOFFまたは電波の届かない場所に移動して通話圏外になった場合は、圏内に戻って再び電源をONにするだけで自動で再び多者間同時通話に戻ります。

実際の操作（現場でのトランシーバーの設定）

この設定は一度だけです。次回も同じ設定で使用する時は、電源を ON にするだけで自動で設定した状態になります。

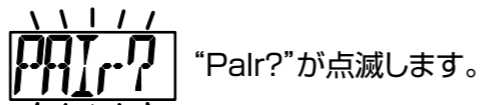
① 多者間同時通話の設定

- 一度全てのトランシーバーの電源を OFF にします。
- [▲ 機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。セットモードになり、“* M” で始まる表示になります。
- [CUE] ボタンを押してから [▲ 機能] または [▼ 〇] ボタンを押して、下記のいずれかと同じ表示を選択して [CUE] ボタンを押します。
親①、親②、子機は後の手順で決めますので、ここでは右のいずれかの表示にあわせるだけです。
- 以上の設定が終了したら、一度電源を OFF にします。

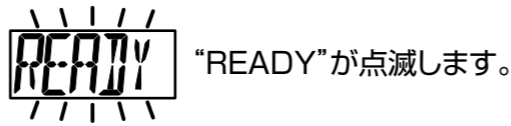


② 多者間同時通話システムのグループ設定を行います

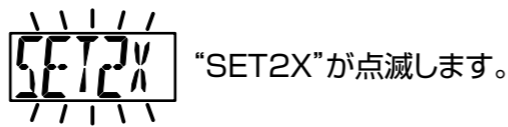
1 始めに、親①の [通話] ボタンを押しながら電源を ON にします。



2 親①の [通話] ボタンを長押しします。他のトランシーバーの設定が始まります。



3 親①の [通話] ボタンを押します。親②を登録します。



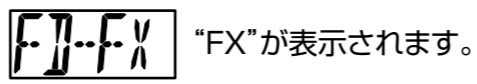
4 親②の電源を ON にすると自動的にこのトランシーバーが親②に設定されます。



5 親①の [通話] ボタンを押します。子機を登録します。



6 子機の電源を ON にすると自動的にこのトランシーバーが子機に設定されます。



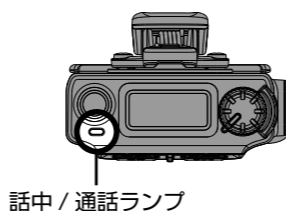
7 子機が複数台ある場合は全ての子機の電源を ON にします (何台でも可能です)。

8 親①の [通話] ボタンを押します。

多者間同時通話がスタートします

多者間同時通話がスタートすると「話中 / 通話ランプ」が、親①親②はオレンジ色で点滅、子機は緑色で点灯し、親①親②の間で同時通話ができます。

・多者間同時通話中に子機側に混信が生じた場合、親①の [▼ 〇] または [▲ 機能] ボタンを押すと、全ての子機のチャンネルを同時に他の同じチャンネルに変更できます。



Bluetooth® ヘッドセットを使う

オプションの Bluetooth® ヘッドセット “SSM-BT10” を使用して、ヘッドセットのケーブルが無いワイヤレス通信が可能です。SSM-BT10 は、周囲のノイズを抑えるノイズキャンセル機能により、クリアな音質での送信が可能です。

注意 ・無線 LAN や電子レンジなどからの影響で Bluetooth® 通信に雑音が入る場合があります。雑音が入る場合は、無線 LAN や電子レンジの使用を中止したり、これらの機器との距離を離したり、Bluetooth® ヘッドセットと無線機の距離をできるだけ近づけてください。
・Bluetooth® ヘッドセットと無線機を、体を挟むようにそれぞれ反対側に装着した場合、Bluetooth® 通信に雑音が入る場合があります。Bluetooth® ヘッドセットと無線機は体の同じ側に装着することをお勧めいたします。

Bluetooth® ヘッドセットを使う

この設定は一度だけです。次回からはトランシーバーとヘッドセットの電源を ON にするだけで、自動で接続されます。

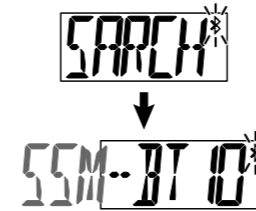
SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを 3 秒以上押し続けてペアリング (接続) モードにします。



一度トランシーバーの電源を OFF にします。

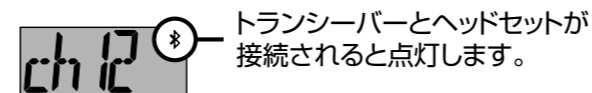
[CUE] ボタンを押しながら電源を ON にします。

“SARCH” の表示になり “*” が点滅します。



接続したいヘッドセットを [▼ 〇] または [▲ 機能] ボタンで選択してください。

[CUE] ボタンを押します。



設定は完了です。

送信するときはヘッドセットのマルチファンクションボタンを押してください。もう一度押すと受信に戻ります。

マルチファンクションボタンを押す

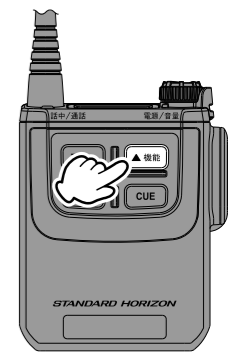


Bluetooth® ヘッドセットを使うのをやめる

[▲ 機能] ボタンを長押しします。

Bluetooth® 機能が OFF になり “*” が消えます。

もう一度長押しすると、再び Bluetooth® 機能が ON になり “*” が点灯します。



Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節する

本機に接続した Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節できます。相手から「声が小さい」と言われたときは“感度を高く”、「声が大きい」「声が割れて聞こえる」と言われたときは“感度を低く”します。

- 電源 OFF ⇒ [▲ 機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
- [▼ 〇] または [▲ 機能] ボタンを押して “BLV” で始まる表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [▼ 〇] または [▲ 機能] ボタンを押してマイクの感度を選びます。
01 (感度低い) ~ 08 (感度高い)
- [CUE] ボタンを押します。
- [▲ 機能] ボタンを長押しして終了です。



FAMICS
多者間同時通話システム

特定小電力トランシーバー

SRFD1 Bluetooth®



取扱説明書

この取扱説明書に記載の社名、商品名などは、各社の登録商標です。
このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。
本体背面に貼ってある“証明ラベル”を剥がしたり、分解や改造を行うことは法律で禁止されています。
他人の会話を聞いて、会話の内容を漏らしたり窃取することは法律で禁止されています。

2008K-CC-1



付属品

- トランシーバー本体
- ベルトクリップ
- リチウムイオンバッテリー SBR-37LI (DC3.6V、2200mAh)
- 急速充電器 SBH-37*
- ACアダプター SAD-15A*
- カラーラベル (赤、青、黄、緑、シルバー、各1枚)
- 取扱説明書
- 保証書

※ オプションの SAD-3715A は SBH-37 と SAD-15A が同梱されています。

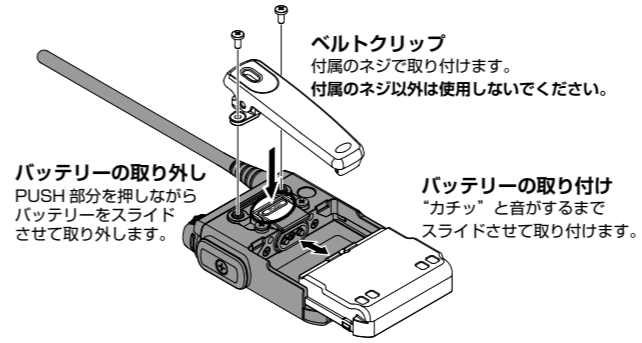
オプション

- Bluetooth® ヘッドセット.....SSM-BT10
- 工事ヘルメット用ヘッドセット*.....SSM-61H
- インターコム型ヘッドセット*.....SSM-62H
- タイピンマイク*.....SSM-50H
- ヘッドセット接続ケーブル.....SCU-49
- リチウムイオンバッテリー (付属品と同等).....SBR-37LI
・ DC3.6V、2200mAh
- 急速充電器.....SAD-3715A
・ SBH-37 と SAD-15A が同梱されています (付属品と同等)
- 連結型充電器.....SBH-38
・ Bluetooth® ヘッドセット SSM-BT10 用充電端子付き
・ ACアダプター SAD-50A が必要です
- 連結型充電器用 AC アダプタ.....SAD-50A
- 乾電池ケース (単4形アルカリ乾電池3本用).....SBT-17

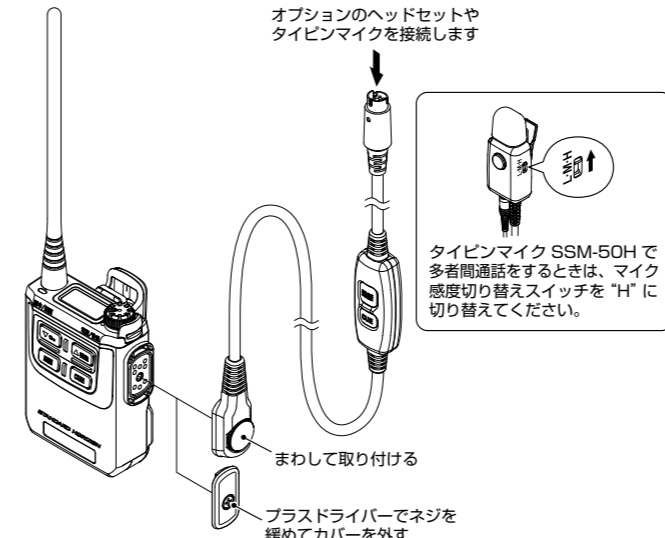
※ヘッドセット接続ケーブル“SCU-49”につないで使用します。

付属品 / オプションの取り付けかた

バッテリー、ベルトクリップの取り付け / 取り外し



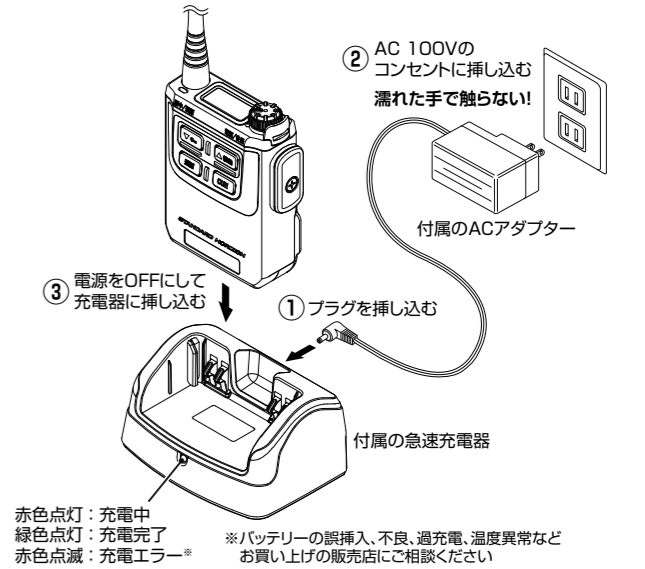
ヘッドセット接続ケーブル“SCU-49”(オプション)の取り付け



充電のしかた (充電時間は約 3 時間)

下図を参考に、付属の急速充電器で充電します。

- 注意**
- ・ 充電は必ず、付属の急速充電器またはオプションの充電器で充電してください。
 - ・ トランシーバーの電源は必ず“OFF”にして充電してください。
 - ・ 漏液や発熱、電池の性能や寿命を低下させる原因になりますので、充電は +5℃ ~ +35℃ の温度範囲で行ってください。
 - ・ リチウムイオンバッテリーや充電器の端子に金属片などが触れてショートしないよう、十分に注意してください。
 - ・ 長時間充電を続けると、リチウムイオンバッテリーを劣化させることがあります。



バッテリー使用可能時間の目安

通信方式	送信出力	リチウムイオンバッテリー	アルカリ乾電池
2台での同時通話	10mW	約 15 時間	約 6 時間
	1mW	約 16 時間	約 6.5 時間
多者間同時通話	10mW	—	—
	1mW	約 10 時間	約 4 時間

各部の説明

話中 / 通話ランプ

単信通話時	送信	赤点灯
	受信	緑点灯
複信通話時	—	オレンジ点灯

多者間同時通話時	親①	—	オレンジ点滅
	子機	送信	青点滅
		同時通話受信中	緑点灯
他の子機が送信中	緑点滅		

多者間同時通話時に親機が同時通話から抜けた時の残ったトランシーバーの単信通話時	送信	赤点灯
	受信	緑点灯

アンテナ

Bluetooth®ヘッドセットが接続されているときに点灯

電池残量表示

現在のチャンネル
現在のグループコード

表示し
多い

点滅
少ない(充電してください)

電源 / 音量ツマミ
右にまわして電源を入れて、聞きやすい音量に調節します。
電源を切るときは“カチッ”というまで左にまわします。

ヘッドセット接続ケーブル (オプション)
オプションのヘッドセットやタイピンマイクを接続します。

通話ボタン
単信通信方式の時は、押し続けている間だけ送信状態になります。

CUE ボタン
受信側の音量が下がっていても、設定音量でアラームを鳴らして緊急連絡や重要案件の通知を行います。

付属のカラーラベル (5色) を貼り付けると、誰が使うトランシーバーなのかを一目で識別できます。

正しくご使用いただくために

- 本機にヘッドセットやマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正オプションを使用してください。当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。
- 当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- リチウムイオンバッテリーを充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。当社指定以外の充電器を使用すると、火災や故障の原因になります。
- 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- 電波法により、トランシーバーを分解・改造することは禁じられています。
- 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- 運用が終わりましたら、バッテリーが消耗しないように、トランシーバーの電源を切ってください。
- トランシーバー内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

防水性能について

- 本機は、IEC 国際規格 IP68 相当 (防塵等級 6*1、防水等級 8*2) の防塵、防水性能を有しています。この性能を永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。
- ボタンのラバー、ヘッドセット接続ケーブル接続端子のラバー、リチウムイオンバッテリー接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
 - 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
 - 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
 - 本機は、水中での使用はできません。
- *1 : 粉塵が内部に侵入しない。
*2 : 水深 1.5m に 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

定格

送受信周波数 : 複信方式 (同時通話) 421MHz 帯 / 440MHz 帯
単信方式 (交互通話) 422MHz 帯

電波型式 : F3E
変調方式 : リアクトン変調
通信方式 : 複信 / 単信方式
送信出力 : 10mW 以下 / 1mW 以下 (電波法施行規則第 6 条適用)
受信感度 : -6dBμ 以下 (12dB SINAD)
低周波出力 : 15mW 以上 (ボリューム最大時)
動作温度範囲 : -10℃ ~ +50℃
定格電圧 : DC 3.7V ~ 4.5V
本体寸法 : 約 60 × 78 × 24 (mm)
(幅 × 高さ × 奥行き、突起物を含まず)
本体重量 : 約 145g (リチウムイオンバッテリー SBR-37LI を含む)

アフターサービス

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店にご相談ください。

製品に関するお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社国内営業部までお願いします。

八重洲無線株式会社
〒140-0002
東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル
TEL : 03-6711-4055

Bluetooth® のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、八重洲無線株式会社はライセンスに基づいて使用しています。

主なセットモードの設定方法

セットモードの基本的な操作方法

本機を使用目的にあった状態でご使用いただくために、31種類の設定をすることができます。セットモードで設定できる機能に関しては、別紙“セットモード一覧”を参照してください。

セットモードの設定は、以下の方法で行います。

1. 一度電源を OFF にします。
2. [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。セットモードになります。
3. 画面の表示を見ながら [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して設定したい項目を選んで [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して希望の設定を選んで [CUE] ボタンを押して確定します。続けて他の項目も設定する時は、手順 3～4 の操作を繰り返します。
5. 設定が終わったら [▲機能] ボタンを長押しして終了します。



セットモードの設定をリセット(初期化)する

全てのセットモードの設定をリセットして、お買い上げ時の設定に戻すことができます。

1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON] ボタンを押して “RESET” の表示にします。
3. [CUE] ボタンを押すとリセットが動作します。途中でリセットを中止したい場合は、電源を OFF にします。
4. チャンネル表示に戻ったら、リセットは終了します。



通話モードの切り替え

多者間同時通話、2台のトランシーバーだけでの同時通話や交互に通話する単信方式、送信は行わずに受信専用として使用するなど、運用にあった通話モードに切り替えてください。

1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. “* M” で始まる表示になります。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して通話モードを選びます。



- D : 2台のトランシーバーで同時通話する“複信方式”
- 1X : 多者間同時通話の親①
- 2X : 多者間同時通話の親②
- FX : 多者間同時通話の子機
- S : 2台のトランシーバーで交互に通話する“単信方式”
- SR : 単信方式の受信専用 (送信できません)
- DR : 複信方式の受信専用 (送信できません)
- FR : 多者間同時通話の受信専用 (送信できません)

5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。

チャンネルタイプ(18ch/9ch)の切り替え

多者間同時通話ではなく、トランシーバー2台だけで同時通話をする場合に使用できるチャンネルタイプを選択します。必ずお互いに同じチャンネルタイプに設定してください。

1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “* T” で始まる表示にします。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押してチャンネルタイプを選びます。



- 18 : ch12～ch29の中から、通話するチャンネルを選択します
- 09 : ch10～ch18の中から、通話するチャンネルを選択します

5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。

操作したときに鳴る音の音量調整

トランシーバーを操作をした時に鳴る「ピッ」というピープ音の音量を調節できます。

1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “2 BL” で始まる表示にします。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して音量を選びます。01 (音量“小”)～15 (音量“大”)
5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。



マイクの感度を調節する

使用状況に応じて、本機に接続したヘッドセットやマイクマイクのマイク感度を調節できます。相手から「声が小さい」と言われたときは“感度を高く”、「声が大きい」「声が割れて聞こえる」などと言われたときは“感度を低く”します。

1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “3 EM” で始まる表示にします。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押してマイクの感度を選びます。01 (感度低い)～08 (感度高い)
5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。



音声で自動的に送信をする (VOX 機能)

“音声自動送信 (VOX) 機能” に設定すると、話をするると自動的に送信状態になり、話をやめると自動的に受信状態に戻ることができます。

1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “V AX” で始まる表示にします。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して VOX 機能の動作を選びます。
 - oF : VOX 機能は動作しません。
 - FV : 話をするると自動的に送信状態になり、話をやめると自動的に受信状態に戻ります。
 - SV : [通話] ボタンを短押しすると送信状態になり、話をやめると自動的に受信状態に戻ります。
5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。



VOX 機能の送信状態になる感度を調節する

音声自動送信 (VOX) 機能を動作させている時に、周囲の騒音が大きく話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 機能の感度を下げてください。

1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “V LV” で始まる表示にします。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して送信状態になる感度を選びます。01 (感度低い)～15 (感度高い)
5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。



送信出力 (10mW/1mW) の切り替え

多者間同時通話ではなく、トランシーバー2台だけで12チャンネル～29チャンネルを使用して同時通話をする場合、送信出力を切り替えることができます。

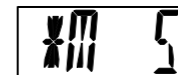
1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “3 PO” で始まる表示にします。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押してチャンネルタイプを選びます。10 : 送信出力が 10mW になり、連続して3分間送信すると一度2秒間受信状態に戻ります。1 : 送信出力が 1mW になり、3分以上の連続送信ができます。
5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。



単信通話 (交互通話) 方式で通話する

携帯電話で話のような同時通話ではなく、交互に話をする“単信通話方式”にすることができます。また、同時通話ができない特定小電力トランシーバーと通話することができます。

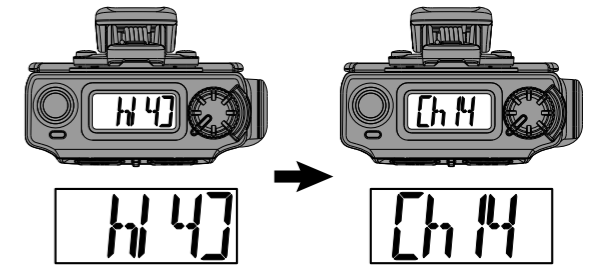
1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。“* M” で始まる表示になります。
2. [CUE] ボタンを押します。
3. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “* M S” を選びます。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [▲機能] ボタンを長押しします。
6. [▼ON]/[▲機能] ボタンで、通話する相手と同じチャンネルにあわせませす。チャンネルは「ch01～ch11」、「ch1～ch9」から選ぶことができます。



- ・単信方式の通話は [通話] ボタンを押しながら話をして、話が終わったら [通話] ボタンを放してください。
- ・[通話] ボタンを押している間は、相手の話を聞くことができません。

画面の表示を 180 度回転させる

トランシーバーの取り付け位置により画面表示が逆さまで見にくい時に、画面の表示を 180 度回転させることができます。



1. 電源 OFF ⇒ [▲機能] ボタンを押しながら電源を ON にします。
2. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して “1 DR” で始まる表示にします。
3. [CUE] ボタンを押します。
4. [▼ON]/[▲機能] ボタンを押して VOX 機能の ON/OFF を選びます。
 - oN : 画面の表示が 180 度回転します。
 - oF : 画面の表示は回転せずそのままです。
5. [CUE] ボタンを押します。
6. [▲機能] ボタンを長押しして終了します。



単信方式 (交互通話) で通話中に電波の弱い相手の音声を聞きやすくする

単信方式で通話中、相手の電波が弱くて音声が途切れ途切りに聞こえる場合“モニター機能”を使用すると、相手の音声が聞きやすくなる場合があります。

1. 電源 OFF ⇒ [▼ON] ボタンを押しながら電源 ON
 - ・モニター機能が動作します。
 - ・信号が無い時は常に“ザー”という雑音聞こえます。
2. 電源を OFF にすると、モニター機能は解除されます。

断線検出機能による点滅表示

接続しているヘッドセットやマイクが断線している場合、電源を ON にした時に、画面に“SPKng”が点滅表示します。“SPKng”が点滅表示された時は、お買い上げの販売店にご相談ください。なお、Bluetooth® 機能が ON の時は断線検出機能は動作しません。

